

# 福田頭 (毛無山) Fukudagashira

福田頭 (毛無山) は広島県北東部、島根県境にほど近い庄原市比和町と西城町にまたがる中国山地、比婆山連峰の南に位置しています。この山は“毛無山”とも呼ばれますが、福田集落の北にそびえていることから現在は、“福田頭 (ふくだがしら)”と呼んでいます。

## ■ブナ林の恵み：たたら製鉄

ブナ林の最大の恵みは、江戸時代、当時日本で必要とされた鉄の70%を生産した「たたら製鉄」を支えたことです。たたら製鉄とは、中国山地の基盤となっている花崗岩類が風化した真砂土 (まさつち) の中から「鉄穴流し」という方法で、砂鉄を採掘し、その砂鉄を木炭で還元して鉄をつくるという技術です。

たたら製鉄では、1回の操業で砂鉄を10~12トン必要とし、木炭は12トンが必要でした。木炭12トンという、面積1ヘクタールの林の落葉広葉樹を伐採し、木炭に焼いてできる量です。ですから製鉄の原料の調達にあたって「小鉄 (こがね) 3里に炭7里」と言われ、木炭の生産のため、大変な量の樹木を必要としていました。しかし、中国山地は豊かな降雨のおかげでブナ林は伐採された後、落葉広葉樹の二次林へ戻り、300年間のたたら製鉄を支えていました。

「かさべるで」にほど近い福田頭の山裾に、たたら製鉄の永代爐を築いた「小峠山鉦」がありました。また、比和地域では鉄穴流しの跡地を水田にした「カンナ流込田」で、米を作っています。

## ■ブナ林の恵み・比婆牛のふるさと・比婆山のブナ純林・比婆山伝説地

吾妻山や福田頭などでは、たたら製鉄用の木炭となる樹木を伐採し、その跡を利用して和牛放牧が行われました。その後、畜産農家の努力により「吾妻蔓」が形成され、「比婆牛」へと発展していきました。

一方、比婆山は、現在も面積170ヘクタールのブナ林があり、西日本有数のブナ林であるところから、昭和35年 (1960年) 7月、国の天然記念物に指定されています。(指定区域は89.9ha)

比婆山の広い範囲にブナ林が残ったのは、比婆山は古事記にいうイザナミノミコトの御陵として信仰の対象であるところからブナ林が守られたためです。

## ■ブナ林の恵み：伝統文化

様々なブナ林の恵みにより育まれた自然への崇敬や信仰が基となり、比和地域では「比婆斎庭神楽」や「比和牛供養田植」、「三河内刀踊り・扇踊り」をはじめとした、唯一無二の文化が生まれ、現在に受け継がれています。

泊



食



自然とやすらぎの里宿泊研修施設  
かさべるで・比和コテージ ☎0824-85-2230

憩



比和温泉施設あけぼの荘 ☎0824-85-2528

買



比和の特産市場 ☎0824-85-2882

学



比和自然科学博物館 ☎0824-85-3005



森林の学び舎・比和 ☎0824-85-3003